



前田 けんいちろう



一般質問に登壇!!身の引き締まる思い 議員として第一歩を踏み出しました!!

今年3月に行われました千葉市議会議員(若葉区)補欠選挙で多くの市民の皆様のご支持を頂戴し市議会に送っていただきました。そして6月4日から23日まで千葉市議会令和3年第2回定例会が行われ、22日に初めての一般質問をさせて頂きました。

質問は、①若葉区の交通について②あんしんケアセンターについてでした。若葉区は、6区の中で一番大きい面積を誇り、一番高齢化の進展している区であり、また要介護認定者数も二番目に多い区であります。広い面積でありながら、交通網がしっかりとしていないと自動車を運転出来ない方に多大な迷惑がかかるという現状。今後、益々需要が増加する介護の関係があり質問させて頂きました。

冒頭あいさつ

自由民主党千葉市議会議員団の前田健一郎です。

はじめに昨年10月28日にご逝去されました秋葉忠雄市議会議員に哀悼の誠を捧げます。秋葉議員のご逝去に伴い、行われました若葉区市議会議員補欠選挙で当選をさせて頂きました。皆様、今後ともご指導のほど、よろしくお願いを申し上げます。

私事になりますが、本日6月22日は私の師である元参議院議長井上裕先生の十四回忌、命日であります。天上から、『しっかりやれよ。』と叱咤激励を頂いているようです。井上門下生の一人として、『得意淡然失意泰然』の精神、思いやりの心を胸に市政発展のために、取り組んで参る所存であります。

1 若葉区の交通について

初めに、若葉区の交通について、質問いたします。

本市の人口は、2020年をピークに、その後減少していくものと予想されておりますが、住民基本台帳人口で市が公表している令和2年度末現在の数字では、97万5,507人と伺っており、令和元年度末から約2,400人の増と、いまだ微増傾向が続いております。そのため人口のピーク時期は少し先になると予想されますが、少子高齢化の急速な進展という厳しい社会情勢の到来は、避けられないと考えられ、約30年後の2050年には、市の人口は約86万3,600人となり、約11%の減になる見込みです。また、65歳以上人口の占める割合、いわゆる高齢化率は、約38.6%に達すると推計されております。

若葉区に着目してみると、令和2年度末現在の人口は、14万8,947人とのことですが、2050年には、約11万1,800人と約25%の減となり、高齢化率にいたっては約45%に達すると推計されており、区民の2人に1人は高齢者となる見込みです。また、面積で見ますと、若葉区は約84平方キロメートルと、本市の面積である約272平方キロメートルの約3分の1を占めており、6区の中では最も大きな面積を有しております。

しかしながら、区内の公共交通機関を見てみると、鉄道はJR都賀駅1か所しかないことから、同駅に接続する形で、千城台駅から動物公園駅まで合計7駅を結んでいる千葉都市モノレールと、区内に約280箇所のバス停留所がある路線バスが非常に大きなウエイトをしております。

一方で、コロナ禍によるリモートワークの浸透や外出控え等により、路線バスやモノレール等の公共交通機関は利用者の低迷が続いていることから、各公共交通事業者は非常に厳しい経営状況が続いていると伺っております。特に路線バスについては、需要減少が続いていることから、路線の縮小や減便等の実施が考えられ、これまでどおりの交通サービスの維持に強い懸念を感じております。

自動車を運転できない学生や高齢者等にとって、公共交通は必要不可欠な存在でありますし、市民の皆様が公共交通を身近に感じられることが、活力に満ちた地域社会の実現につながると、私は考えています。

そのためには、各公共交通事業者が抱えている課題や懸念、そして利用者である地域の方々も抱える課題等を双方で把握・共有し、的確な支援策を検討・実施することで、持続可能で地域が求める交通サービスの展開につなげることができるのではないかと考えております。

また、モノレールの千城台駅から東側の泉地域において運行されているコミュニティバスは、民間路線バスの撤退に伴う生活交通の確保を図ることを目的に、市がバス事業者に運行を委託しており、千城台駅を起終点に、おまごバス、さらしなバス、いずみバスの3路線で、令和元年度には年間11万2,275人の方々にご利用されております。

おまごバスについては、区内の観光施設をまわり、八街市域に達していることもあり、3路線で最も利用が多い路線です。さらしなバスについては、「東京情報大学」や「下田農業ふれあい館」を経由し、中田スポーツセンター方面をつないでおり、いずみバスについては「いきもの里」や「平和公園」、「泉自然公園」をまわる路線となっております。

これら3路線のコミュニティバスでは、ルートやダイヤ等の運行計画や地域からの要望等について協議するため、沿線自治会や関係機関等からなる「若葉区泉地域コミュニティバス運行協議会」が設置されております。令和元年度の運賃改定の際には、モノレールと連携した1日共通乗車券の試験的導入など新しい取組みについても決定されており、こうした取組みは、将来的には複数の公共交通の検索・予約・決済等を一括で行うと呼ばれるサービスに、つながるものと考えられることから、今後も協議会の場において、持続可能な交通手段とするための利用促進等の検討をする

ことが重要と考えます。

また、これらの公共交通を支える道路は、国道51号バイパスの整備により交通状況が改善されたと実感しておりますが、まだまだ整備が行き届いていないと感じております。特に若葉区においては、先ほど説明したように、他の地域と比べ、面積が大きいにもかかわらず、鉄道駅が1か所しかないことから、道路は市民生活を支える重要な社会基盤となっており、その整備が強く求められております。

そこで、4点伺います。

- 1 点目に、モノレールの利用状況と利用促進等に向けた取組みについて
- 2 点目に、路線バスやタクシーの利用状況と、コロナ禍における交通事業者への支援について
- 3 点目に、若葉区泉地域コミュニティバスの持続可能な運行に向けた取組みについて、4 点目に、若葉区内の幹線道路の現状と今後の整備方針について伺います。

答弁:都市局長

まず、千葉都市モノレールの利用状況と利用促進等に向けた取組みについてですが、モノレールの年間輸送人員は、令和元年度まで8期連続で増加しておりましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年度から約450万人減少し、約1,490万人となる見込みであると、千葉都市モノレール株式会社より報告を受けております。このような状況で、モノレールを安心して利用いただくために、全駅の自動券売機・ICチャージ機と全車両の内装への抗菌コーティングを実施したほか、車両の窓開けによる換気の徹底や車内混雑率の公表による時差通勤の呼びかけ等を行っているところです。また、利用促進に向け、駅舎トイレのリニューアル・洋式化、駅コンコース及びホームへの案内のための床サイン表示、モノレールフリーきっぷと動物公園入園券をセットした割引きっぷの販売、『初音ミク』とのコラボによる情報発信・PR事業等を実施しました。さらに、新たな利用者確保のため、動物公園駅の駅前広場において自家用車からモノレールに乗り換えるパーク・アンド・ライドの社会実験を令和4年6月末まで期間延長したほか、桜木地区における「グリーンズローモビリティを用いた実証調査」では、モノレール利用を促す2次交通としての可能性の検証も実施しました。今後も千葉都市モノレール株式会社と、より一層の連携を図り、モノレールの魅力向上や利用促進策について積極的に取り組んでまいります。

次に、路線バスやタクシーの利用状況と、コロナ禍における交通事業者への支援についてですが、令和2年度のバスやタクシーの利用者数について、国土交通省が全国の乗合バス事業者240者に対し調査したところ、令和2年度の年間輸送人員は、対前年度で2割から3割程度の減となりました。若葉区泉地域コミュニティバスの利用者数に関しては前年度より約4割の減となっております。また、法人タクシーは、本市と四街道市からなる千葉支部圏内での利用者は、前年度より約4割の減であると聞いており、路線バスやタクシー等の公共交通事業者は、厳しい経営状況が続いていると考えております。本市といたしましては昨年度は、公共交通事業者に対し3つの補助事業を実施いたしました。

1つ目は、市内路線バス事業者や法人タクシー事業者が実施している職員の二種免許取得養成制度へ支援するもので、合計8社の事業者にご活用いただきました。2つ目は、利用者の密な環境を避けるため、緊急事態宣言下で減便等をせずに運行本数の維持に努めた市内の全ての路線バス事業者10社に対して、事業継続のための支援を実施しました。3つ目は、運転席等の仕切りカーテン設置や消毒用アルコール類の購入など感染防止対策へ支援するもので、市内路線バス事業者や法人タクシー事業者合計36社にご活用いただきました。運転手養成や感染防止対策に対する支援につきましては、継続して実施し、公共交通の維持・確保に向けた様々な施策を進めてまいります。

次に、若葉区泉地域コミュニティバスの持続可能な取組みについてですが、沿線の各自治会、関係機関及び市等で構成する「若葉区泉地域コミュニティバス運行協議会」の場において、コミュニティバス利用の呼びかけ、運行ルートやダイヤの検討、バス待ち環境改善等の様々な取組みを行っております。

これまでの取組みの例として、農作物の直売所としてにぎわっている下田農業ふれあい館を経由する運行ルートへの変更や、千城台駅発の最終バス便を遅くする等の運行ダイヤの見直しを実施しております。このほかにも、泉地域コミュニティバスについては、バス運行情報のオープンデータ化が完了し、現在はグーグルマップにおいて、コミュニティバスも移動選択肢として反映されるようになっております。この取組みにより、利用者は出発地と目的地を入力すれば、乗降するバス停留所、発車時刻、目的地までの所要時間が表示されることから、新規利用者の確保にもつながるもの

6区で最も面積が大きい若葉区、生活交通の確保を要望

と考えております。

コミュニティバスを継続して運行していくためには、地域の方々にご利用いただくことが何よりも重要と考えており、今後も、沿線の各自治会や関係機関等と協力して利用促進や環境整備に努めてまいります。

答弁:建設局長

若葉区内の幹線道路の現状と今後の整備方針についてですが、区内の幹線道路は、国道51号、126号や県道千葉川上八街線など、他市との広域的な連携を図る放射道路とこれらを連絡する県道浜野四街道長沼線、都市計画道路の磯辺茂呂町線や源町桜木線など、環状道路で形成されております。しかしながら、都市計画道路では、未整備の区間、いわゆるミッシングリンクが一部で存在しているほか、既存道路では右折レーンがないことや変則的な食い違い交差点によるボトルネックが存在するなど、幹線道路の機能が十分に発揮されているとは言えない状況となっております。これらのことから、ミッシングリンクを解消する道路ネットワークの整備とボトルネックの解消を図る交差点改良など、既存道路の質を向上させる道路施設のリノベーションを2つの柱として、積極的に整備を推進していきたいと考えております。

前田健一郎からの意見と要望

地域の皆様からは、路線バスの減便により、通院や買い物が不自由になったという声が、寄せられていることも事実です。バス事業者は非常に厳しい経営状況が続いておりますが、地域の最も身近な移動手段でありますので、持続性を高めるため、当局にはより一層の支援体制づくりについて検討することを強く要望いたします。

また、現在、まさに進展している少子・超高齢社会への対応には、既存の公共交通事業者だけでは不十分であり、地域に根ざした生活交通を確保するために福祉有償輸送事業を始め、地域による支え合い交通、買い物支援サービスなど、あらゆる輸送手段を総動員することが必要であります。現在、策定を進めている地域公共交通計画においても、生活交通の確保について、十分に議論し、策定されることを望みます。

次に、若葉区内の幹線道路の現状と今後の整備方針についてですが、区内の幹線道路は、一部が未整備であったり、局所的に渋滞が発生している箇所があるなど、幹線道路の機能が十分に発揮されていないことがわかりました。市民の快適で安全な暮らしを支えるためにも、「道路ネットワークの整備」と、交差点の改良など「道路施設のリノベーション」を、積極的に取り組んでいただくよう要望します。

「高齢者がいきいきと暮らせるまち」の実現に向け あんしんケアセンターを強化、きめ細かな支援を

2 あんしんケアセンターについて

次に、あんしんケアセンターについて、質問いたします。

私は、この選挙活動の中で、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、選挙区である若葉区を市街部から農村部までまわって動き回り、多くの人と会い、多くのご意見、ご声援を頂戴いたしました。この中で、一番に肌で感じたことは、先ほども少し触れましたが、若葉区の高齢化の進展についてであります。特に、ひとり暮らしや高齢者世帯の方々から、身体機能の低下に伴う不安や、いざというときに頼れる身内が近くにいない現状などを伺い、複雑な思いを抱えながら生活されているということを目の当たりにしました。

高齢化の進行具合を示す言葉として、「高齢化社会」、「高齢社会」、「超高齢社会」という言葉があります。65歳以上の人口が、全人口に対して7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」と定義されるそうですが、本市の高齢化率は令和3年3月31日現在で、26.15%になっており、21%をはるかに超え、まさに超高齢社会となっております。そして、私の選挙区である若葉区は、30.87%で、本市で最も高齢化が進展している区となっております。

高齢者が増加することにより、落ち着きのある成熟した社会になるなど、良いことも少なくありませんが、高齢化の進展は、労働力人口の減少と医療・介護費の増大など、社会保障に関する給付と負担のバランスを崩すなど、経済成長や社会保障制度に大きな影響を及ぼすことは否めません。

一例として、令和3年3月31日現在で、本市の要介護認定者数の状況は、45,451人と4万人を超えております。区別では、多い順に中央区9,488人、若葉区9,026人、花見川区8,600人、稲毛区7,257人、美浜区5,911人、緑区5,169人となり、若葉区は、2番目に要介護認定者数の多い区となっております。

進展する高齢化のなか、医療や介護に係る社会保障制度を維持するために進められているのが地域包括ケアシステムだと考えますが、その中核を担っているのが、地域包括支援センター、本市で言うところのあんしんケアセンターだと思います。

そこで、2点お伺いします。

1 点目に、あんしんケアセンターが平成18年度に設置されて、すでに15年が経過しますが、これまでの実績について、

2 点目に、今年度は、5年に一度のあんしんケアセンター委託業務の委託法人の公募の年に当たっていると聞いておりますが、今後、あんしんケアセンターをどのように強化し、今後も進展する超高齢社会に対応しようと考えているのか、お伺いします。

答弁:保健福祉局長

あんしんケアセンターのこれまでの実績についてですが、同センターは平成18年4月に、各区に2か所、計12か所でスタートし、その後、24年度、29年度に増設を行い、現在は、出張所2か所を含め、計30か所の設置となっております。

実績として、昨年度の総合相談件数は、設置初年度の約13倍となる8万5,693件であり、相談内容は介護保険制度や認知症に関すること、経済的問題や家族関係、虐待・成年後見制度関連など幅広く、保健師または看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員の包括3職種がチームとなり、高齢者のためのワンストップの相談窓口として、それぞれの専門性を生かした機能を発揮して参りました。また、保健福祉センター、医療機関、居宅介護支援事業所、サービス事業所をはじめとする保健・医療・福祉の関係機関との連携を着実に進めるとともに、生活支援コーディネーターと協働して地域住民による活動を支援するなど、地域包括ケアシステムの深化に向け、ネットワーク構築を強化しているところです。

答弁:保健福祉局長

次に、今後、あんしんケアセンターをどのように強化し、進展する超高齢社会に対応しようと考えているのかについてですが、高齢化の進展に伴うひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の増加、社会とのつながりの希薄化など、社会情勢の変化により、あんしんケアセンターが支援する困難事例は、年々、増え続けており、今後は、8050問題や認知症、高齢者虐待など、介護・医療に加え、経済的問題や権利擁護も絡む、複雑多岐な課題への対応がさらに必要になると予測されます。

そのため、迅速かつ円滑な対応ができるよう、引き続き、高齢者人口に応じた包括3職種の適正配置や、市民のニーズに即応できる資質の向上に取り組んで参ります。

また、センターの機動力を生かし、訪問活動や出張相談などのアウトリーチ機能を強化するとともに、必要に応じて出張所を増設するなど、市民が身近な場所で相談ができる体制を整備して参ります。



前田健一郎からの意見と要望

あんしんケアセンターについてです。進展する超高齢社会に対し、包括3職種の増員や出張所の増設などで、計画的に取り組むという当局のお考えがわかりました。ところで、冒頭、若葉区の高齢化率は、6区の中で1番高いと申し上げましたが、75歳以上の、いわゆる後期高齢者の割合についても、令和3年3月31日現在、16.87%と、2番目の花見川区の14.75%と比較しても2.12ポイント高い状況です。さらに、若葉区は、6区の中で、一番面積が広い反面、交通ネットワークは、必ずしも十分とは言えないことから、高齢者が、あんしんケアセンターに行こうと思ったらどうしても自家用車等に頼らざるをえません。

当局には、「高齢者がいきいきと暮らせるまち」の実現に向け、迅速かつ、きめ細かな支援を受けることができるよう、センターによる出張相談や訪問活動などアウトリーチの充実に取り組んでいただきますよう要望いたします。

活動報告

本会議に於いて、常任委員会、特別委員会の所属が決まりました。常任委員会は、環境経済委員会の所属となり、委員方々の推薦を頂き副委員長の役職に就任致しました。

特別委員会は、超高齢社会調査特別委員会の所属となりました。

そして皆さんに一番身近な千葉市議会広報委員にも所属させて頂きました。

市民の皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくおねがい致します。



自民党の会派として新型コロナワクチン接種について、希望する全ての方々が高齢かつ円滑に接種できる様、要望書を神谷千葉市長に提出してきました。

6月28日、八街市の市道で下校途中の小学児童の列にトラックが突っ込み児童5人が死傷するという事故が起きました。5年前にも朝陽小学校の学区で同様の事故がありました。二度と起こってはいけない痛ましい死亡事故が再度起こってしまいました。飲酒運転をした容疑者には怒りしかないが、5年前の教訓を活かした通学路の整備、安全対策が出来なかったのか?子を持つ親として、未来ある子どもたちのためにしっかりと対策を早急に講じなければいけないと痛感しました。亡くなられた児童、残された家族、友達のお気持ち。ご冥福をお祈りするしかありません。そして一日も早い回復を祈るばかりです。

この事故を受け、交通安全要望書を当局に提出させて頂きました。

